

# ファッションを通じた自己表現の在り方

綱 北斗

近年、オンライン化の進展により、スマホさえあれば家にいながら大抵のことは自分一人でできるような時代となった。利便性が高まった一方で、家から出る機会が減り、人と人とのつながりが気薄になったのではないだろうか。このことはファッションを通じた自己表現においてもいうことができる。家から出ずともオンライン上で買い物や商品の情報収集、SNSでの発信が可能になったことで、消費者は直接店舗に足を運ぶ必要がなくなった。これにより、ファッションを通じた自己表現の多くはインターネット上から得られる情報だけで人と関わることなく消費者のみで完結したオリジナリティのないものになった。

そこで本論文では、ソーシャル・キャピタルという社会学的視点を考慮し、消費行動をも含むファッションを通じた自己表現の在り方について検討した。その結果、「人間関係」は重要であり、ファッションを通じた自己表現は、「他者との関わりや刺激を受けた人間関係を経て獲得した経験、共感や知見といった世界観を自分の価値観と照らして解釈し、落とし込んだ独自性(あるいは個性)を基礎として形成されたスタイル」であるという結論に至った。

スマホさえあれば大抵のことは自分一人でできてしまう現代だが、ファッションを通じた自己表現においてはやはり、家から出ずに自分一人で完結してしまうのではなく、自身で直接店舗や展示会などに足を運んだり、スタッフやデザイナー、友達などと話したりして得たものを自分の中に落とし込んだオリジナルのものが好ましい。人間関係を経て、考えを深めたり、新しい自分をみつけたりする経験が重要であり、独自性のある、自分だけの自己表現につながるのである。